

笑顔大好き

発行者：常井洋治
〒319-0205 笠間市押辺1745
TEL.0299-45-6818
FAX.0299-45-0818



▲笠間市新年賀詞交歓会にて、昨年叙勲、褒章等の受章(賞)の栄に浴された特別招待者の方々を囲んで。(H27年1月)

県立中央病院 新院長に吉川裕之氏が内定 産科の早期再開に期待

- 平成27年4月1日から、筑波大学医学医療系長 医学医療系産科婦人科 教授 吉川裕之氏が、県立中央病院病院長に就任する予定です。
- この就任により、(現)永井秀雄病院長があと一步のところまで進めてきた産科の再開と小児科の充実の早期実現に、大きな弾みがつくものと期待しております。
- (現)永井病院長は、平成19年4月以来8年間、県民のための医療の要である当病院の建て直しに意欲的に取り組み、飛躍的な充実、発展に貢献されました。
- また、この人事に伴い、(現)永井病院長は、3月末で退職し、平成27年4月1日から県立中央病院において、週3回、非常勤で診療に携わっていただく予定です。



吉川裕之氏



(現)永井病院長

(参考)

- 吉川裕之氏略歴
 - ・S26.6.26生 (63歳)
 - ・S53.3 東京大学医学部卒
 - ・S53.6 東京大学医学部附属病院 研修医 (産科婦人科)
 - ・S61.4 ドイツ国立がんセンター留学
 - ・H3.1 都立駒込病院 医員 (産婦人科)
 - ・H6.8 東京大学医学部 講師 (産科婦人科病棟医長)
 - ・H8.4 東京大学医学部 助教授
 - ・H13.2 筑波大学臨床医学系産科婦人科 教授
 - ・H24.4 筑波大学医学医療系長

燃える郷土愛。全力投球!!

とてつもなく元気な茨城県、笠間市をめざす

皆様方には、私常井洋治の県議会活動に対し、いつも熱いご支援を賜り、心からお礼申し上げます。

さて、昨年暮れの県議会議員選挙におきましては、無投票で5期目の当選をすることができました。改めて感謝申し上げます。

いま、身の引き締まる思いで、初心に戻り、皆様の信頼に応えるべく、今任期の仕事をスタートしました。

これまで県議会の論戦の中でも茨城県の潜在的な能力や、発展可能性(ポテンシャル)が強調されてきましたが、私はいつまでも「可能性」のままではなく、それらをどう具体化していくかということこそが重要だと考えています。

県政をもっとダイナミックに動かすことによって、とてつもなく元気ですばらしい茨城県や笠間市が実現できると確信しています。キーワードは「総合力の結集」だと思います。全ての地域資源と人の英知のフル活用です。

私の5期目は、そのような夢を皆様に提示しながら、実現するためにエンジン役としてこれまで以上に頑張りたいと思っています。皆様の一層のご指導をお願い申し上げます。

寒さの厳しい日々が続きますので、どうぞご自愛ください。



茨城県議会議員 **常井洋治**

2014.12.5 5期目当選(無投票)

あたたかいご支援 ありがとうございます。 引き続き 全力投球でがんばります。



▲新任期開始の1月8日に初登庁しました。新しい議員バッジをつけてもらい、「さあ、これからだ」という思いでした。(H27年1月)



▲当選祝いで、毎回遊説隊でお世話になっている皆さんと一緒に「バンザーイ」。(H26年12月)



▲12月5日の公示日だけの選挙運動でしたが、精力的に街頭演説で政策を訴えました。(H26年12月)



▲ダルマの眼入れ式では、数納美行後援会長代行や同級生たちがお手伝いしてくれました。私の力強い仲間です。(H26年12月)



▲公示日前夜に開催した「必勝の集い」には、氷雨の降る中にも拘らず約900人もの方が、参加くださいました。本当にありがとうございました。仕事でキッチリ応えていきます。(H26年12月)

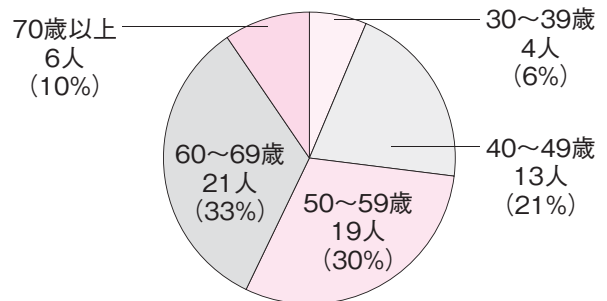
新県議会の概要

- 1. 議員定数 63人(うち女性は5人)-任期開始 1月8日
- 2. 平均年齢 56.3歳
- 3. 当選期数別会派別内訳 平成27年1月30日現在

会派 期数	いばらき 自民党	自民県政 クラブ	民主党	公明党	日本 共産党	無所属	計
8	1						1
7	4	1	1				6
6	4	2		1			7
5	6						6
4	3					1	4
3	9		1	2(1)	1(1)	1	14(2)
2	13	2	2(1)	1			18(1)
1	4(1)		1		2(1)		7(2)
計	44(1)	5	5(1)	4(1)	3(2)	2	63(5)

※()内は女性議員数で内数

4. 年齢別議員数内訳



- 5. 平成27年1月16日の臨時会で議長や副議長、常任委員会などの構成を決定しました。

常任委員会の構成

	総務企画 委員会	防災環境 商工委員会	保健福祉 委員会	農林水産 委員会	土木企業 委員会	文教警察 委員会	計
委員定数	11	10	11	11	10	10	63人

- 6. 常井洋治は、総務企画委員会に所属します。

初の企業立地 — 茨城中央工業団地(笠間地区) —

1. 立地企業

1 回定例県議会に議案提出予定。(単価 26,000円/㎡)

- ジャパンテック(株)(協栄産業グループ)
- ・本社 栃木県鹿沼市 ・資本金 5,000万円
 - ・設立 平成4年11月
 - ・工場 宇都宮工場(本社)、栃木工場、苫小牧工場
 - ・事業 合成樹脂再生加工販売(2011年に国内初となる使用済みペットボトルを大手飲料メーカーのペットボトルの原料にリサイクルする事業を実施。)
 - ・受賞歴(協栄産業グループ)
 - 平成26年2月 低炭素杯2014環境大臣賞金賞
 - 平成26年3月 とちぎ産業活力大賞最優秀賞

2. 敷地面積 約2ha(常磐道上り線サービスエリア出入口付近)

3. 敷地価額 売却金額約5億4千万円で、平成27年第

4. 建築施設計画

工場棟 約3,300㎡ 事務所・倉庫棟 約1,900㎡

5. 事業内容 使用済みペットボトルのリサイクル事業

6. 雇用計画 30名

7. 竣工予定 平成27年9月

常井洋治コメント

※ 私は、昨年の県出資団体等調査特別委員会等で、この団地の分譲方策を数々提案して早期売却を促してきました。今回の立地を契機に、一層頑張ります。なお、団地名を「笠間・友部工業団地」に改称するようにとの私の提案をもとに同委員会として提言しております。その実現に向けて皆さんの応援をお願いします。

上記団地販売促進のため 友部SA隣地で

●平成27年3月21日(土) 10:00~16:00

「出張版笠間の陶炎祭」を開催

●笠間焼展示販売、本県農林水産物直売、観光物産品販売
焼栗・栗洋菓子販売、遊覧ヘリコプター(抽選)など

犬の殺処分頭数が大幅減少

本県の犬の殺処分頭数は、8年連続全国ワースト1位となっておりましたが、今般、平成25年度の全国集計結果で本県はワースト1位から2位となりました。

○平成25年度犬の殺処分頭数

順位	都道府県名	頭数	前年度比較()は前年度順位
第1位	香川県	2,360頭	増 256頭(第4位)
第2位	茨城県	2,158頭	▲1,019頭(第1位)
第3位	沖縄県	1,965頭	▲339頭(第3位)
第4位	広島県	1,708頭	▲661頭(第2位)
第5位	山口県	1,340頭	増 2頭(第14位)
第47位	福井県	46頭	※1,019頭減は全国1位

○平成25年度に犬の殺処分頭数が年間約1,000頭減少した主な理由

- ・平成25年度に動物の愛護及び管理に関する法律の改正があり、県の引取り時の拒否事項が法的に位置付けられ、引取り頭数が減少した。(平成24年度比465頭減)
- ・ボランティア団体との連携により、新たな飼い主への譲渡頭数が増加した。(平成24年度比162頭減)

・動物指導センターによる動物ふれあい教室、親子見学会等の開催などにより、動物愛護の啓発の効果が見られた。

・平成25年度には、県動物の愛護及び管理に関する条例の改正を行い、マスコミ等で動物愛護に関する記事が多く取り上げられた。

○犬の捕獲頭数が多いのは、第1位 神栖市(248頭)、第2位 小美玉市(161頭)、第3位 鉾田市(159頭)、第4位 水戸市(145頭)、第5位 筑西市(129頭)で笠間市は第13位(68頭)。鹿行地域、県西地域の市町村が多い傾向にある。

常井洋治コメント

※ 私は、自民党政調会の勉強会で再三「殺処分ゼロ」を明確に掲げて目指すことを求めてきました。そういう方針で本気で取り組まないならば、笠間市にある殺処分の現場である県動物指導センターを他地区へ移転するよう意見を述べました。その結果、県の本格的な取り組みにつながったと思っています。やればできるということが実証されました。一層の減少を目指します。

総務企画委員会(要約)(H26.11.7)

- 近隣11都県で最低水準の県職員初任給引き上げを
- 若い職員に「アジアの息吹」体験を
- 市町村への権限移譲をどう進めるのか
- 茨城中央工業団地(笠間地区)での農産物直売フェアの実施予定は
- 人口急減社会へ向けて、県はどう対応するのか
- 世界に向けた新たな政策展開を

常井委員 県職員の初任給(平成26年4月1日現在の一般行政職(大学卒程度)172,200円/月)は、関東甲信越静11都県の中で一番低い。県財政が逼迫している状況にあるが、本県の将来を担う人材を確保し、これからの地域間競争を勝ち抜くためにも、また、若い職員に対する子育て支援のためにも、初任給の引き上げを含む独自の給料表を検討すべきだ。

菊地総務部長 初任給の引上げが給与水準の全体的な上昇につながらないように配慮しつつ、初任給アップをすべきとの人事委員会からの勧告を尊重しつつ対応を検討していく。

常井委員 本県が日本一の県を目指すには、給与とあわせて職員の研修も重要。若い職員を海外研修としてベトナムなど東

南アジアの発展途上国へ派遣し、「アジアの息吹」を体感させ、新しい風を県庁に取り入れるべきだ。

菊地総務部長 県庁以外の職場・世界を体験することは人材育成を図る上で非常に重要なことである。今後も、できるだけ多くの職員に、海外のほか民間企業や国・市町村など研修機会を提供していく。

常井委員 県から市町村への権限移譲が進められることにより、住民に身近な事務は市町村で行うという趣旨は理解できるものの、県の仕事が増える「空洞化」や県民の声が県へ届きにくくなり、県民と県との間に意識の乖離が生じる懸念がある。今後、権限移譲はどのように進めていくのか。

菊地総務部長 市町村への権限移譲とともに、国から県への権限移譲も進んでいることから、県の役割はますます大きくなっている。また、出先機関での経験や市町村との人事交流などの機会を通じて得た現場感覚を失わずに、今後も第6次行財政改革大綱の目標達成に向けて、権限移譲を進めていく。

常井委員 茨城中央工業団地(笠間地区)の土地販売を促進するために、私はこれまでも県出資団体等調査特別委員会等において、多くの方々に現地に来て見てもらうためにも、継続的に県内農産物の直売フェアを実施してPRをすべきであると提言してきた。実施に向けた具体的なスケジュールはどうなっているのか。

猿田事業推進課長 造成後をイメージしてもらうために完成形に近い画地として整備したモデル画地(2ha)での農産物直売フェアの開催については、今年度内に開催できるよう関係機関と調整中である。(3月21日(土)開催決定。P3参照)

常井委員 国の「まち・ひと・しごと創生法(※)」を踏まえ、本県でも同戦略本部の準備会議を開催することになったが、人口急減社会に対する問題意識を契機として、我が国の将来のあり方を考えることは非常に良い機会だ。国からの「上から目線的」な発想や提案を待つのではなく、地方から何を提案していくかが重要だ。それぞれ部長らが考える「今後、県としてやっていきたいこと」は何か。

松下理事兼政策審議監 出生率を上げ、社会が活性化するためにも、女性が活躍できる社会づくりが重要。また、本県のような優位性をPRして、企業を誘致し、雇用の場の確保に努めていく。

野口企画部長 「しごと」が最も重要であり、本県の科学技術の集積や、広域交通ネットワークの整備など本県の強みを活

かした新産業の創出や農産物の6次産業化を観光につなぐなど交流人口の拡大を検討していく。また、首都圏災害時のバックアップ機能を含めた、企業や大学・政府機関等の誘致なども検討すべき施策と考える。

※まち・ひと・しごと創生法

少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施する。

- ・まち…国民1人ひとりが夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営める地域社会の形成
- ・ひと…地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保
- ・しごと…地域における魅力ある多様な就業の機会の創出

常井委員 茨城県の約1兆1,000億円の予算は世界の中の一國をしのぐ予算規模であり、空港も港湾もあり、世界に向けていつでもスタンバイできる態勢ができています。知事も最近「世界に開かれた茨城」を掲げ、今年度から知事直轄の部署に国際課が移管されるなど対応しているが、今後、本県の活力を維持向上させるためには、国内に軸足を置きつつ、もう一つの軸足を海外に向け、国際政策に取り組むことが大事だ。農産物の輸出も企業の海外展開だっていっぱいできるはずだ。

川又国際政策統括監 つくばにおける高度人材の受入やG8サミット関係関係会合の誘致、ベトナムとの農業における技術協力など、高度な人材交流を進める。企業の海外展開支援や海外からの観光客誘客などを進め、本県が国内外の競争に勝ち抜けるように取り組んでいく。



▲ 俎倉(まないたぐら)区の敬老会は、少人数だが、アットホームな楽しいひとときとなった。(H26年11月)



▲ 福原地区運動会での選手宣誓は、とてもほほえましかった。(H26年11月)



▲ 笠間署での年末特別警戒防犯パトロール出発式には、地域の防犯連絡員等の皆さんが大勢参集した。(H26年12月)



▲ 天狗ファンタジーでは、「環(たまき)の会」の皆さんの合唱に合わせて、参加者も口ずさむ姿が見られた。(H26年11月)



▲ 友部地区の大沢中3区(入江廣区長)の新年会で紹介される新入居の皆さん。昨年13世帯増と驚異的である。(H27年1月)



▲ 「障害者ふれあいスポーツの集い」に参加した皆さんは、さわやかな汗を流して交流を深めた。(H26年11月)



▲ 合気道の合気会茨城支部道場での鏡開き式にて、植芝守央道主(中央)を囲んで。(H27年1月)



▲ 第52回県下中学校校交歓笠間市駅伝大会には、31校77チームが参加して、新春の笠間路を疾走した。(H27年1月)



▲ 笠間市の成人対象者は、約770人。成人式では、久しぶりの再会に弾む声が続いた。(H27年1月)